

Readings

Acts 14:21 εὐαγγελισάμενοί τε τὴν πόλιν ἐκείνην καὶ μαθητεύσαντες ἱκανοὺς ὑπέστρεψαν εἰς τὴν Λύστραν καὶ εἰς Ἰκόνιον καὶ εἰς Ἀντιόχειαν

Acts 14:22 ἐπιστηρίζοντες τὰς ψυχὰς τῶν μαθητῶν, παρακαλοῦντες ἐμμένειν τῇ πίστει καὶ ὅτι διὰ πολλῶν θλίψεων δεῖ ἡμᾶς εἰσελθεῖν εἰς τὴν βασιλείαν τοῦ θεοῦ.

Acts 14:23 χειροτονήσαντες δὲ αὐτοῖς κατ' ἐκκλησίαν πρεσβυτέρους, προσευξάμενοι μετὰ νηστειῶν παρέθεντο αὐτοὺς τῷ κυρίῳ εἰς ὃν πεπιστεύκεισαν.

Acts 14:24 Καὶ διελθόντες τὴν Πισιδίαν ἦλθον εἰς τὴν Παμφυλίαν

Acts 14:25 καὶ λαλήσαντες ἐν Πέργῃ τὸν λόγον κατέβησαν εἰς Ἀττάλειαν

Acts 14:26 κάκειθεν ἀπέπλευσαν εἰς Ἀντιόχειαν, ὅθεν ἦσαν παραδεδομένοι τῇ χάριτι τοῦ θεοῦ εἰς τὸ ἔργον ὃ ἐπλήρωσαν.

Acts 14:27 παραγενόμενοι δὲ καὶ συναγαγόντες τὴν ἐκκλησίαν ἀνήγγελλον ὅσα ἐποίησεν ὁ θεὸς μετ' αὐτῶν καὶ ὅτι ἤνοιξεν τοῖς ἔθνεσιν θύραν πίστεως.

Rev 21:1 Καὶ εἶδον οὐρανὸν καινὸν καὶ γῆν καινὴν. ὁ γὰρ πρῶτος οὐρανὸς καὶ ἡ πρώτη γῆ ἀπῆλθαν καὶ ἡ θάλασσα οὐκ ἔστιν ἔτι.

Rev 21:2 καὶ τὴν πόλιν τὴν ἁγίαν Ἱερουσαλὴμ καινὴν εἶδον καταβαίνουσαν ἐκ τοῦ οὐρανοῦ ἀπὸ τοῦ θεοῦ ἠτοιμασμένην ὡς νύμφην κεκοσμημένην τῷ ἀνδρὶ αὐτῆς.

Rev 21:3 καὶ ἤκουσα φωνῆς μεγάλης ἐκ τοῦ θρόνου λεγούσης· ἰδοὺ ἡ σκηνὴ τοῦ θεοῦ μετὰ τῶν ἀνθρώπων, καὶ σκηνώσει μετ' αὐτῶν, καὶ αὐτοὶ λαοὶ αὐτοῦ ἔσονται, καὶ αὐτὸς ὁ θεὸς μετ' αὐτῶν ἔσται [αὐτῶν θεός],

Rev 21:4 καὶ ἐξαλείψει πᾶν δάκρυον ἐκ τῶν ὀφθαλμῶν αὐτῶν, καὶ ὁ θάνατος οὐκ ἔσται ἔτι οὔτε πένθος οὔτε κραυγὴ οὔτε πόνος οὐκ ἔσται ἔτι, [ὅτι] τὰ πρῶτα ἀπῆλθαν.

Rev 21:5 Καὶ εἶπεν ὁ καθήμενος ἐπὶ τῷ θρόνῳ· ἰδοὺ καινὰ ποιῶ πάντα καὶ λέγει· γράψον, ὅτι οὗτοι οἱ λόγοι πιστοὶ καὶ ἀληθινοὶ εἰσιν.

John 13:31 Ὅτε οὖν ἐξῆλθεν, λέγει Ἰησοῦς· νῦν ἐδοξάσθη ὁ υἱὸς τοῦ ἀνθρώπου καὶ ὁ θεὸς ἐδοξάσθη ἐν αὐτῷ·

John 13:32 [εἰ ὁ θεὸς ἐδοξάσθη ἐν αὐτῷ,] καὶ ὁ θεὸς δοξάσει αὐτὸν ἐν αὐτῷ, καὶ εὐθὺς δοξάσει αὐτόν.

John 13:33 τεκνία, ἔτι μικρὸν μεθ' ὑμῶν εἰμι· ζητήσετέ με, καὶ καθὼς εἶπον τοῖς Ἰουδαίοις ὅτι ὅπου ἐγὼ ὑπάγω ὑμεῖς οὐ δύνασθε ἐλθεῖν, καὶ ὑμῖν λέγω ἄρτι.

John 13:34 Ἐντολὴν καινὴν δίδωμι ὑμῖν, ἵνα ἀγαπᾶτε ἀλλήλους, καθὼς ἠγάπησα ὑμᾶς ἵνα καὶ ὑμεῖς ἀγαπᾶτε ἀλλήλους.

John 13:35 ἐν τούτῳ γινώσκονται πάντες ὅτι ἐμοὶ μαθηταὶ ἐστε, ἐὰν ἀγάπην ἔχητε ἐν ἀλλήλοις.

Comments

- 今日は復活節の第5主日。復活の主日から「見て、信じた」弟子たちは、次第に見なくても信じる者と変えられてゆき、主を「分からなかった者」から「知る」者になり、そして先週では良い牧者であるイエスは、羊飼いのことを羊が知るよりも先に、羊をよく「知っている」方であるとイエスの理解が深められてきた。今日の復活節第五主日では、ヨハネ福音書からA年には「キリストはぶどうの木」、B年には「いのちに至る道」、そして今年C年には「新しい掟」が朗読される。この「互いに愛し合いなさい、わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい ἀγαπάτε ἀλλήλους, καθὼς ἠγάπησα ὑμᾶς ἵνα καὶ ὑμεῖς ἀγαπάτε ἀλλήλους」という掟は、キリスト教がしばしば「愛の宗教」と呼ばれることを強く思い起こさせる。だが同時にこの掟を前にして立ちすくむような感覚がどこかに残っていないだろうか。当たり前を受け取ってしまっているこの「新しい掟」を考え直してみたい。まず、哲学のように「愛するとは何か」という理論としてではなく、「互いに愛し合いなさい」という掟が与えられている典礼朗読の文脈を確認したい。この新しい掟は、最後の晩餐の後、これから受難を受けるイエスが弟子たちに語った説教集の一部で、十字架によって神から栄光を受けると語るイエスが、自らの死へと歩み出す直前の場面である。「互いに愛し合いなさい」という命令は、死を引き受けるイエスによって、十字架上で善と悪が露わになる緊張した場面に置かれていることがわかる。道徳や倫理として余裕のある心理状態で語られた掟ではない。
- 次に「互いに愛し合え」という表現に疑問が湧く。「愛し合いなさい」という他者からそうするようにと強制される「愛」は価値があるのだろうか。「愛せよ」という命令自体が無意味な命令ではないか。なぜなら何の束縛もなく自らのうちから自由に湧き上がることを愛と呼ぶのであって、命令によって実行されたあたかも「愛」に見えるものは偽善であるからだ。「愛」は使い方に注意されるべき特別なことばではないか。聖書で使われている「愛」を理解する手がかりとして答唱詩篇で歌われた詩篇145:8は次のように歌っている。「主は恵みに富み、哀れみ深く 忍耐強く、慈しみに満ちておられます(新共同訳): וְגַדְלֵ֣הוּ אֱֽלֹהִים אֲרָרָהוּ יְהוָה יְרַחֵם וְיַחַם חַנּוּן וְעֶלְמוּם אֲדֹנָי אֱלֵהֶם אֲרַחֵם וְיַחַם חַנּוּן וְעֶלְמוּם אֲדֹנָי エレク アッパーム ヴゲダル-ハーセド」これを逐語訳すると、「恵みとあわれみ 主は。おそい 怒り そして大きい-慈しみ」となる。これら「恵み」「あわれみ」「おそい怒り」「大きい-いつくしみ」という語は、主の特徴を指しているのであって、人のそれではないと歌っている。主は恵みとあわれみの方である、それは人の罪と愚かさを滅ぼす怒りを下すまでに忍耐されているので遅い、なので慈しみが大きい<sup>1</sup>というのである<sup>2</sup>。
- この詩編の背景を踏まえて、福音朗読にある弟子たちに「互いに愛し合いなさい」と語った掟をどう理解したらよいのだろうか。まず、1)「愛せよ」という命令形は意味をなしていない、2) 愛することは神の特徴である 3) 人である弟子たちは互いに愛していなかったことがイエスに指摘された、といえよう。するとイエスの「愛せよ」という命令は、直ちに人を葛藤に陥れてしまう。神のように愛することはできない人間に過ぎない自分と、主の掟と命令を守れると思っていた自分が否定されていることに気づくからだ。ではイエスは我々に何を望んでこのような無理な掟を命じているのだろうか。それは、「愛せよ」という命令の前に立ちすくむ自分を認めることである。神のように愛することができないという自らの愚かさを認めさせた者は、それができるのは自分ではなく主であることを知るので、神を讃えることができるようになる。他方、自分で愛することができる者と錯覚する者は、いつのまにか自分で自分を自画自賛することに行きついてしまう。復活節の典礼は十字架と復活によって、弟子たちが自分の愚かさを「知る」者となり、主はそういう自分をすでに最初から「知って」いたのに咎めなかった、その慈しみに立ち尽くす<sup>3</sup>ことへ導いている。

<sup>1</sup> cf. 出34:6, 民14:18, イザ26:20, ヨナ4:2, ハバ3:2!, 詩30:6, 103:8.

<sup>2</sup> 詩145:8のMTのアトナックとレヴィアの位置に注意。

<sup>3</sup> cf. マタ26:75